


|                          |  |
|--------------------------|--|
| 1 実践テーマ                  | 【 Ⅲ, Ⅴ 】   |
| 2 実施対象者                  | 坂東市立東中学校 1年48名 2年51名 3年46名 保護者10名<br>職員 15名 合計 170名  |
| 3 展開の形式                  | (1) 学校における活動<br>① 教科名 ( )<br>② 行事名 (車いすバスケットボール体験)<br>③ その他 ( )<br>(2) 地域における活動<br>① イベント名 ( )<br>② その他 ( )  |
| 4 目標<br>(ねらい)            | ○パラリンピックについての理解を深める。<br>○障害とともに生きるアスリートの生き方や思いを聞き, 自分の将来の生き方について考え, 夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度を養う。   |
| 5 取組内容                   | 1 日時 平成30年11月2日(金) 13:30~15:30<br>2 場所 坂東市立東中学校 体育館<br>3 講師 車いすバスケットボールチーム「栃木レイカーズ」選手5名<br>4 内容 ルールの説明 実演<br>車いすでのバスケットボールの体験<br>選手の体験談や将来への思いについての講話<br><br><br>5 感想<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>・レイカーズの選手の「足が不自由になったからこそ分かったことがある, できるようになったことがある」という言葉が印象的だった。自分も自らできることを探して実践していきたい。</p> </div> |
| 6 主な成果                   | ○東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。<br>○パラスポーツの実践から, パラスポーツ及び障害者への理解が深まった。<br>○選手の生き方を通して, 生徒は自分の夢や目標や生き方について考えたり, 日々の努力の大切さについて学んだりすることができた。<br>○全ての人々が共生できる社会の形成について考えることができた。  |
| 7 実践において工夫した点<br>(事業の特色) | ○全生徒が実際にパラスポーツの体験をできるようにしたこと。<br>○管理職が事前に車いすバスケットボールのイベントに参加し, ルールや実際の困難さを知ること, 企画運営段階で効果的な助言につなげたこと。  |
| 8 主な課題等                  | ○全校生徒一斉に行ったので, 一人一人の体験時間が短かった。学年ごとにするなど時間設定の工夫が必要である。<br>○教科・領域等における学習内容の取り扱いなどを明確にし, 教育課程の中で計画的に実践していく必要がある。<br>○学校公開日での開催であったが保護者の参加は少なかった。さらに広報を拡大したい。  |
| 9 来年度以降の実施予定             | ○生徒達が, 将来への志を高くし, 夢や希望をもって学校生活を遅れるように, キャリア教育の一環としても取組を検討しながら取り組んでいく。  |